



町の情報宅配便



じょうほうたくはいびん

元気いっぱいの新入生・園児

4月4日、朝10時より、「こどもの丘保育園」で入園式が執り行われました。

好天气に恵まれ、新緑の中、41人の赤ちゃんや子供たちが若い保護者にダッコや手をひかれての入園になりました。理事長や園長のあたたかい歓迎のあいさつの後、佐藤町長の来賓あいさつでは、町の子育て支援策の拡充の案内など、お祝いのあいさつを述べられました。

広い背面の森や園庭で大いに遊び、元気に成長して、町の将来を力強いものにしてほしいと願う一日でした。

町内の他の園の入園状況は「ひまわり幼稚園」55人（町内29人、町外26人）と「文化幼稚園」14人となっています。



小学校入学式

4月9日午前10時より各小学校で入学式が執り行われました。

桜満開の中、小学校では家族に付き添われ、まだまだ小さな体つきの子どもたちが希望を胸に、初めての登校をしました。

緊張の中、小さい新入学生のしっかりとした入場行進の後、国歌斉唱や新入学生の氏名点呼が行われ、学校長が式辞を述べられました。式辞の中で「自分の体を大切にすることが大事」、特に登下校の安全に気を付けるよう述べられました。来賓祝辞として

各小学校に町長、副町長、総務課長、教育長がそれぞれ出席され入学のお祝いを述べられました。

未来を担う子供たちがすくすく、タケノコのように育ててほしいと思いました。

本年度の各小学校の入学者数は第一小学校・32人、第二小学校・14人、第三小学校・20人、第四小学校・8人で、計74人でした。

南関中学校入学式

4月9日、午後1時30分より中学校では入学式が執り行われました。新入学生の入場・国歌斉唱・新入学生の氏名点呼が行われ、学校長の式辞、教育委員会よりの告辞が行われました。来賓祝辞は町長・PTA会長から祝辞を述べられた。その後来賓紹介（議員、民生員、教育員、区長、郵便局長、PTA役員他）、在校生より歓迎のあいさつ、保護者代表挨拶があり終了した。新入生は79人でした。



各小中学校の児童生徒数の推移

	平成2年度	平成7年度	平成12年度	平成17年度	平成22年度	平成27年度
南関第一小学校	294	237	258	257	173	139
南関第二小学校	251	243	174	145	104	89
南関第三小学校	206	201	143	123	132	105
南関第四小学校	192	198	155	133	101	69
南関中学校	456	460	423	356	310	253

視察研修に行ってきました



文教厚生常任委員会

平成27年2月25日(水)～26日(木)
阿蘇郡高森町、球磨郡山江村



電子黒板やタブレット型パソコンなど情報通信技術 (ICT) を活用した授業が全国的に広まっているなか、政府は2020年をめどに全国の小中学校に一人1台の教育用タブレットを配り、ICT教育を更に推進させる計画である。本教育の重要性に鑑み、実証研究に取り組むICT教育の先進地であり、平成26年度 熊本県教育委員会指定 [ICTを活用した「未来の学校」創造プロジェクト] の研究推進校に指定されている高森町と山江村のICTを活用した学校教育の取組みについて研修を行った。それぞれの町の取組みは次のとおりです。

■ 高森町研修

人口6,486人、面積174,9km²の同町には、中学校2校(166人)、小学校2校(295人)が存在している。佐藤教育長より、高森町新教育プランの重点施策、ICT環境の整備について説明を受けた。ICTを活用した教育の充実を図るため教育長を統括責任者「教育CIO」とする体制の下、電子黒板は12年度から全学級に配備(32台)、デジタル教科書の全学校導入、タブレットパソコンは町内全ての小中学校に導入(360台)され、一人一台での使用が基本となっているなど機器を生かした教育に取り組まれている。

実際の授業風景を視察したが、音楽の授業では全生徒がタブレットパソコンを活用、ヘッドホンをつけての授業は予想もしていない光景であった。英語の授業では、電子黒板に次々と英単語が表示された瞬間に全生徒が発音、教師が指導する場面や3,444人のグループ学習ではそれぞれのグループで文章を読む者、それを聞いてパソコンに文章を打つ者といった役割を交代しながらの展開を見ることが出来た。昔と全く異なる授業風景に驚愕させられたものである。

■ 山江村研修

人口3,698人、121,21km²、中学校1校(111人)、小学校2校(218&39人)ではH24年に実証研究校として95台のタブレットPCが提供され、H25年度には村の予算で170台のタブレットPC導入、1～4年生はグループに1台、5年生以上には一人1台の環境が整備された。電子黒板は全教室に配備され、授業改善が進み、小中学校共に学力の向上度合いを可視化、比較したグラフには学校を挙げた取組みが見て取れた。電子黒板を活用した国語の授業では、5分、10分といった考える時間を与え、感想や意見をパソコンに入力、それを見て教師が意見発表を促せば全員が手を挙げて極めて積極的に自分の考えを述べていた。発表の中で出てきた言葉(謙虚)に対しても直ちに辞書で調べさせ、その意味を発表させる、全生徒の机上には辞書が置かれており、使い込まれているのがはっきり目視できた。電子黒板を使いこなさず矢継ぎ早の質問、積極的な意見発表の連続で極めて内容の濃い、充実した授業光景であった。

【山江村 山田小のICT環境】

○教育用パソコン20台(デスクトップ) 校務用パソコン23台(教員1人1台) ○タブレットパソコン120台(5,6年1人1台、4年以下4人に1台) ○電子黒板10台(各学級1台、特別教室、体育館) 50型7台、60型4台
○無線LANの整備(全教室、特別教室、体育館) ○実物投影機 各学級1台 ○教師用デジタル教科書の完備(全学級、国算社理) ○校務支援システムの完備(通知表、指導要領、出席簿) ○熊本県校務支援システム(出張、年休等) ○ICT支援員の配備

■ 考 察

ICTを活用した授業の取組みを視察した結果、両町村とも電子黒板やタブレットはあくまでも授業のための道具であるという認識であった。基本は板書きであり、アナログとデジタルの使い分けをきちんとするということがあったが、ICTの活用と技術力には驚くばかりであった。生徒の授業に対する集中度に感心させられたが、ICTの活用技術力と授業の集中度は正比例するとはっきり認識したものである。

グループ学習が多用されていたが、互いに意見を出し合う姿勢に、こちらははじめ、不登校を反比例させる効果大と感じさせられたものである。

その昔、鉄砲が戦国の世の戦を一変させたが、遠隔授業も可能なICTも又、学校の授業を大きく変えていくであろう。乗り遅れることのないよう、最優先で取り組むべき課題である。

「農業の将来に向けて」

■ 研修目的

農業従事者の高齢化と農業担い手不足、中山間地農業の典型である経営規模の零細さ、米価の低迷、所得減少等、我が町の農業環境は厳しい状況にあり、耕作放棄地の増加が懸念されている。今、農事組合法人の設立が急務となってきている。その中で、農事組合法人を設立し耕作放棄地の解消などに努めるため。

■ 研修内容

2月5日(木) 視察(葦北郡芦北町 農事組合法人 みのり会)

みのり会の大野地区は芦北町の東部に位置し、大関山の豊富な水を活かした食味豊かな米を中心に畜産等の農業経営が行われている。

平成12年度までの大野地区のほとんど圃場が整備され営農条件は整っているが芦北町をはじめ大野集落にも高齢化や担い手不足により耕作放棄地が増加しつつある。このような中、平成24年より県事業「農地集積加速化事業」が始まり大野地区が重点地区に指定され農業生産基盤の維持(耕作放棄地対策)に向け取り組みが行われている。

この「みのり会」の設立に至るまでは圃場整備が終了し、平成12年度に始まった「中山間地域等直接支払制度」の取組を進めたことが組織作りの契機であった。集落内で農地維持、用水路整備等を行うとともに交付金の有効利用について座談会を重ね「共同で使えるような堆肥・肥料散布機が欲しい」との要望から始まり、トラクター・田植え機などの農業用機械購入へとつながった。そのため、平成19年度から法人化に向けた勉強会や座談会を重ね、平成21年6月1日に、芦北町では2例目となる「農事組合法人みのり会」を設立した。

組合員数は18名、出資金は一人10,000円で900,000円である。農機具はトラクター、田植え機、コンバインなど8台、機械倉庫を1棟所有。経営の概要として、作物は農地の有効活用で「春そばと米」、「玉ねぎと米」という二毛作体系に取り組んでおり、経営面積は5.5ha(平成25年度)である。春そばは7ha作付けし、「日本一早い新そば街道」で提供しておられる。また、玉ねぎは1ha作付けし、生で食べられる「サラたまちゃん」の商標で販売をされている。

作業受託は水稻の作業受託が経営の中心であり、高齢化や担い手不足等により、受託面積が増加傾向にあり特に、田植え(25ha)、収穫(26ha)、育苗(7,300枚)の増加が顕著であり今後も増加する見込みという事である。また、地域密着として「明るく元気な村づくり」を目指し、地元小学校と協力した耕作放棄地解消活動やそば打ち指導、そば祭りの開催など、様々な活動を通して元気を届けておられる。

今後は、経営品目としてフォアスシステムを活用した圃場に収益性の高い葉物野菜等の取組を進め、平成25年に製麺業を取得し年越しそばなどを地元中心に販売する予定という事である。

2月6日(金) 視察(八代市鏡町 大東肥料株式会社)

大東肥料(株)は大正10年8月に大阪市で有機質肥料中村商店として設立し、大阪府肥料商工業協同組合を経て昭和28年8月に現在の大東肥料(株)に変更。創業以来、有機肥料をベースに配合肥料の製造を行ってきたが、粒状肥料・液肥・発酵肥料から土壌改良材などに至るまで取り扱い、現在では天然ヤシ殻資材、天然腐植酸土壌改良資材、鯉エキス有機入り液肥、鮮魚ぼかし肥料など製品として生産中である。その中でもぼかし肥料については、魅力は何と言っても有機原料を発酵させることにより、肥料成分が吸収されやすく、また土壌微生物を活性化させ土壌改良の効果がある事である。今までの「ぼかし肥料」では均一な発酵製品の供給が難しく成分不均一性の問題が生じるのが現状であるが独自の発酵システムを開発し、諸問題を解決し生まれたのが鮮魚ぼかしである。肥料は、チッソ、リンサン、カリ、の配合により各作物等に最適な肥料を製造されるという事であった。

■ まとめ

みのり会の地区は圃場整備が殆ど終了し、作業受託も行っており集落外からの受託も増加傾向にあり、今後農事組合法人の設立には圃場の整備、農作物の規模拡大、作業の受託、圃場に収益性の高い野菜の作付け、など、課題はたくさんあったが、本町も農業従事者の高齢化や後継者不足等により農地の維持が難しくなることが予想され、まず圃場の整備を行い、若い世代の参加意欲を図り、農協OB等の核となる指導者を中心に、集落営農組織の立ち上げが必要と感じられた研修であった。



議会日誌

1~4月

主なものを載せています

- 1月28日 広報委員会
- 2月4日 広報委員会
- 5日 { 総務産業常任委員会研修
- ~6日 { (芦北町・八代市)
- 12日 { 町村新議会議員研修
- (熊本自治会館)
- 19日 総務産業及び文教厚生常任委員会
- 19日 全員協議会
- 25日 { 文教厚生常任委員会研修
- ~26日 { (高森町、山江村)
- 27日 議会運営委員会
- 3月11日 } 3月定例議会
- ~18日 }
- 24日 総務産業常任委員会
- 4月2日 広報委員会
- 14日 { 総務産業常任委員会研修
- (八女市・朝倉市)
- 16日 全員協議会、広報委員会
- 23日 広報委員会
- 28日 文教厚生委員会研修(熊本市)
- 30日 広報委員会

Topic!

何時でも、いざと言うときの備え



今年の2月22日、宮尾地区で防災訓練が行われました。地区では、東区・中区・西区合同で自主防災組織(藤本晃会長)を設立しています。地区の特性として小岱山のすそ野に位置しているため、過去(昭和37年)には県道を決壊させる大土石流災害により甚大な被害も発生しております。そのため、住民の関心も高く、80名近くが参加されました。社会福祉協議会の協力で日本赤十字委託の田上さん(救急救命士で元有明広域消防署勤務)の指導の下、緊急の場合の人口呼吸法やAEDの使い方、地元消防団参加での消火器の取り扱いや簡易な担架の利用法、また避難した場合の毛布でのガウンの作り方など多岐にわたりご指導いただきました。南関町は盆地地形で土石流危険箇所が多く存在します。豪雨や地震など大災害への備えとして、訓練は何回しても、し過ぎと言うことはありません。いざと言う時のため、備えをしましょう。



赤坂・厳神(かざりがみ)神社の紹介

ティーブレイク
編集後記



正治2年 1200年前
紀州熊野大社(和歌山県)を勧請した(分家)
大津山河内の守経澄が正長元年に2町8反神殿を寄進し領内の鎮護の神社とした
(現在地より東方1キロメートルの地点)
佐々茂政より没収させられたが復興した。その後厳地区の方に移転した。
改築され200年前後立っている。
神殿は互い違い造りで彫刻は南関町では厳神社1か所と玉名の疋野神社しか残っていない。中の拝殿には龍の彫り物、武将の似顔絵が壁、天井に飾り付けてある。
氏は赤坂・庄寺・北細永・松尾・西豊永(175名)で3月・4月・7月・11月に神事が行われている。以前は各地域の民芸保存会によって神楽を舞っていたが、今では西豊永の民芸保存会のみで行われている (立山秀喜)

編集(広報調査特別委員会)

- | | |
|-------|--------|
| 委員長 | 本田 眞二 |
| 副委員長 | 立山 秀喜 |
| 委員 | 杉村 博明 |
| 委員 | 立山 比呂志 |
| 発行責任者 | |
| 議長 | 酒見 喬 |